

**オンライン国際会議
アフリカ東海岸の物流回廊
『自由で開かれたインド太平洋ビジョン』の文脈から
実施報告書(概要版)**

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

セミナー開催概要

- 共 催 : 公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所 (OPRI-SPF)
公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団(日本 GIF)

- 日 時 : 2021年11月18日(木) 13:00~15:30
- 開催形式: オンライン (YouTube を利用したライブ配信)
- プログラム(敬称略):

開会挨拶: 阪口秀 笹川平和財団海洋政策研究所 所長

基調講演:

ブレンドン・キャノン カリファ大学 (UAE) 助教授

秋元一峰 笹川平和財団海洋政策研究所 特別研究員

パネルディスカッション:

<パネリスト>

ブレンドン・キャノン カリファ大学 (UAE) 助教授

秋元一峰 笹川平和財団海洋政策研究所 特別研究員

<コメンテーター>

カール・ブルック 環境法研究所 (米国) 上席弁護士

相澤輝昭 防衛大学校防衛学教育学群 准教授

小林正典 笹川平和財団海洋政策研究所 主任研究員

渡邊敦 笹川平和財団海洋政策研究所 主任研究員

<モデレーター>

中山幹康 日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団 専務理事

開催の趣旨

日本が提唱する「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」構想は、インド太平洋地域全体の平和と繁栄を確保し、地域内の国々に安定と繁栄をもたらすための結束を重視している。アフリカ東海岸の物流回廊は、インド太平洋地域におけるシーレーンの終端であり、これらの回廊の機能を維持・強化することは、この地域でブルー・エコノミーを開発するためには不可欠である。

しかし、日本政府や企業の FOIP への関心が、東南アジアや南アジアに集中しており、東アフリカへの関心が相対的に低く、援助や開発の優先順位が現状に合っていないという

懸念もある。

そのため、東アフリカにおける物流回廊の持続的な発展と成長のために、日本や世界がとるべきアプローチや、シーレーンの安定的な機能を確保する方法について、研究者が意見交換を行った。

講演要旨

- 外交青書、通商白書、JETRO と JICA の文書中の FOIP 関連キーワードの使用について調べたところ、2016 年以降すべての省庁と機関で使用が増えていたが、それは日本の大きな政策転換を意味するものではない。
- 東アフリカの 4 つの大水深港がこの地域の輸出入の多くを担っているが、今後日本などとインフラを整備することにより、新たな物流回廊の可能性がでてくる。
- 中国はパッケージディールを行っているため、今後アフリカの国々が債務の罠に陥る懸念がある。
- ブルー・インフィニティ・ループ(BIL)という 8 の字のシーレーンは、東アフリカにもアクセスポイントがいくつかあるため、その安全性確保が重要になる。
- アメリカ国防省の FOIP 構想のパンフレットには、FOIP はアジア太平洋地域のものとして触れられており、アフリカ東海岸には全く触れられていない。近年、中国、日本、台湾、韓国などの漁船がアフリカ東海岸に入ってきたことにより、漁業資源や地元の漁業に悪影響を与えていることが分かっており、国際的支援が必要である。
アフリカではブルー・エコノミーへの関心が高まっており、今後、経済発展や海洋環境保全を総合的に理解した人材育成、政策決定者の育成が重要になってくる。

質疑応答

中国の対外政策の変化や「債務の罠」について、アメリカ政府の FOIP 構想への対応について、最近のエチオピアの内紛が与える影響について、FOIP 構想の今後について等、質疑応答が行われた。

アンケート・感想

参加者に対し、国際会議終了後に OPRI-SPF よりアンケートへの回答を依頼。会議を知った経緯、参加のきっかけ、意見や要望等について貴重なご意見を頂戴した。

また、今後のセミナー企画の参考のため、当財団のインターンにセミナーへの参加を促し、コメントを得た。

動画

日本語 : <https://www.youtube.com/watch?v=LryOBnG26RI>

英語 : <https://www.youtube.com/watch?v=hXYM3zIIdvY>

以上